

安全衛生対策強化月間

2017年の年が明け、あっという間に1ヵ月が過ぎました。早や2月、基幹労連の2月は「安全衛生対策強化月間」です。仕事始めの1月5日、基幹労連本部役職員全員で富岡八幡宮に詣でました。二礼二拍手一礼に込めた思いは、基幹労連に関わる全ての仲間の安全と健康。1年間の無災害、そして何より死亡災害ゼロをお祈りしたところです。

私たちは、新年をはじめ、様々な場面で神仏に祈りを捧げます。とりわけ、安全衛生に関しては、多くの事業所で個々人も含め、誓いを立てて祈る「誓願」を行なっています。そのもとで、安全衛生方針にもとづいた無災害職場の確立に向け種々の取り組みを進めています。残念ながら、そうした努力にも関わらず、昨年、基幹労連に関係する事業所で21人もの尊い命を失うこととなりました。

酉年の今年、俯瞰(ふかん)や鳥瞰(ちょうかん)という言葉が新年互礼会等の挨拶で使われています。この言葉は大所高所からマクロ的、大局的に物事全体を把握する目を意味します。業務の遂行も安全の取り組みも、こうした視点が大切なことは言うまでもありませんが、これに加えて、現場第一線で働く仲間の皆さんの安全を守るためには、虫の目・魚の目を持つことが必要です。虫の目とは、物事に近づいて様々な角度から細部を見つめる複眼の目。魚の目とは、潮の流れのような周りの変化を敏感に感じ取る目といわれています。私たち組合役員も含め、職場の変化を感じることでできる目があれば、レスポンスの良い次なるアクションにつなげることができます。しかし、一人で多様な目を持つことはなかなか難しいことです。だからこそ、私たちの労働運動は仲間との支え合いで足らざるを補っているのです。安全も然り。より多くの目、仲間同士の声掛け・指摘がカバーしてくれるのではないのでしょうか。

2月の安全衛生対策強化月間の取り組みの一つに、「ご安全に」の声掛け運動をあげています。代わり映えのない取り組みという指摘を受けることもあります。愚直に仲間同士のより多くの目・力を借りて職場を守っていくための取り組みです。

命の尊さは、触れるまでもありませんが、私たちのまわりでは、災害だけでなく私傷病等で亡くなる方も驚くほどおられます。昨年1年間で、組合員本人248人、配偶者114人です。

安全という文字は、【安】:ウ冠は家、家の中でくつろいでいる。やすらかな様子を表している。【全】は、すべて・欠けているものがない。と辞書に記されています。すなわち、心身共の健康と安らぎの確保ができていた状態を表したものといえます。労働組合の究極の目的は、「組合員とその家族の幸せ追求」、安全で健康で誰一人かけることのない生活がその第一歩です。

安全活動は、解の見えない取り組みかもしれません。しかし、続けなければ、我が身と仲間を「守る」ことはできません。「災害に不思議なし、安全に不思議あり。」先達の残した言葉です。

安全職場を造り上げていくために、互いに指摘し合う、その指先に幸せの種が宿っています。

ご安全に

2017年2月1日

日本基幹産業労働組合連合会

事務局長 神田 健一